

分類 0.2-1-2

極秘

(昭和十六年六月)

日本外交協會

S 1.3.3.0-1

＝(日)中の條約調印まで＝

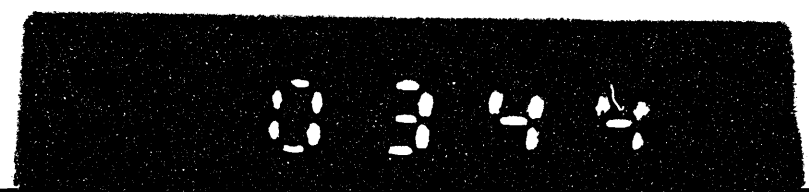
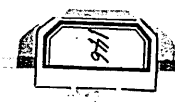
外相渡歐に隨伴して

3089

0369

同盟通信社總局長 岡村ニニ氏述(要旨)

日本外交協會第四十三回例會席上



お断り

本局は松岡外相隨員一人として渡歐し、同盟通信社因村二氏が當協會に於て到かれ、此の歸朝談の要旨を將に尋致せ度、此の關係に附し、そのものであるが、事は機微なる外交問題に属し、殊に對各位は之を取扱につき注意の上にも注意を加へらば、御覽察の上、當事務局へ御返送下さらば、受に都合である。尚ほ本勝寫に關する内容、其他一切の責任は當協會にあることを附言する。

昭和十六年五月

日本外交協會調査局

E 1.3.3.0-1

3091

前 言

一 往路篇

二 トイワ篇

1 國境の豪華歓迎

2 敵敵の「ハル」入り

3 遠慮し、我が空軍

4 ニッポンの「ハル」物資統制實情

5 天衣無縫の「ガリ」元帥

E 1.3.3.0-1

三 イタリ一篇

1 心からなる歓迎振り

2 ムソリーニ首相の風采

3 物資統制に苦心

4 松岡ムソリーニ會見の幕

5 對モロトフ會談雜帶

6 シニツグム行

四 フランスト篇

1 對モロトフ會談雜帶

2 シニツグム行

E 1.3.3.0-1

3092

3 最後、五分間に突給

4 煙を巻か、其國大役

5 相恰を崩し、スターリ

6 モスコ一驛、演劇的場面

7 驚かした書記長の見送り

8 何が、何の條約を改訂させたか

E 1.3.3.0-1

3093

(目次終り)

外相渡歐に随伴して

（日ノ中立條約調印まで）

同盟通信社編輯之友 岡村 二 氏述（要旨）

前 言

リカのお集りに斯ういふ方々が御出席になるといふ書いそりのを
昨晚勤き、急に崎嶇が付きまして、暇でも痛くをらうかと思つたの
でありましたけれども、我社の重役の命令もありましたものですから
や否や、何事も他人の記事を見れば、こんな話らぬりのを書いて来
ると六つを要するに批判する立場にありまして、と腹が久しがりや

0371

3094

E 1.3.5.0-1

外報に出たものでありますから、一々失敗ばかりでありまして、歸
つて来てより出てい申上げるやうな土産話ゆゑなく、困つて居るの
であります。まあ一通り私の見聞を申上げて御挨拶を仰ぐこと
にいたします。

一、往路篇

（シベリア—モスクワ）

シベリアの汽車の中では飛来一行は非常な敬待を蒙りました。お
前。やうなやせを食はせぬで死んでしまふかといふやうに大分嫌ま
んで参つたのでありますけれども、汽車の中はいつ十六夜乃至二十
十度位でシベリア鐵道の諸君が皆、實に温度の調節に苦心して居る
やうであります。それから非常な御馳走が申出しまして、後から考へ
ると此は悪して料理人であつたか、相當のお役入りであつたか分り
ませぬけれども、兎に角三人の茶尾服を着た聲に堂々とするモスクワ

3095

E 1.3.5.0-1

のモスクワの料理人といふのが我々のために準備で三
人乗つて居りまして、それ食へ、それ飲めといふかやうなわけの料理
にお頼りな立派なものを、そればかり、そればかりの大変な敬待あり
ました。途中道路は開けてありまして、夕暮の軍帯工場を見
ましてもそれは悪材がドク（恐線と選出）に居るのを見え、工場ま
じりも随分目につきました。どういふ所を開けて放して見ると出
来るやうなところまで居りました。

モスクワ一治致しまして當時の首相兼外務大臣のモロトフさん
に會ひました。今日は何でもいふお話をすからでさる池田率
直に申上りますけれども、實は最初にお断はりして還かおければな
らなかつたのであります。私は新聞記者として隨いて参りました
ので真相を全然存じて居りません、唯だあ、でもあつたか斯うでし
あつたかといふ見えて居つた或は聞き聞き聞つて居つた事ばかりを繋ぎ合せて
申し上げる中で、大部分は私の聞き振るが多いといふ構りで

0372

3096

E 1.3.5.0-1

お聴取を願ひたいのであります。何でも汽車の中の大体打合せを致
して置きました。此方に行き掛かるとクレーン氏に敬意を表し、い
つて居りました。とこのお着いた日に松岡さん加例のクレムリンの
モロトフさんの書齋でモロトフさんに會つて話をして居ると、モス
クワリッソンさんにもお會ひになりました。松岡さん加例のクレムリン
そこでありました。松岡さんは打合せであつたので、松岡さん加例の
と申ひましたけれども、あの大臣のことでありましたから、「いや別
に會ひたくない、會ひたくないけれども、どうせ通り掛りだから一
度は敬意を表したい、お世話になつたお禮を言ひたいから向い加都
合ふけれども會つて宜しいといふお返事をしなさい。それで、

合ふけれども會つて宜しいといふお返事をしなさい。それで、
ます。可なりでは何席か會ひに参りますかといふ言つてお礼をささ
であります。俺の方ではどうも直いけれども、明日又發つて行か
なけりなるといふ言ひましたと云ふ、モロトフさんが心電語を

3097

E 1.3.5.0-1

かかると、一寸待つて下さい。いまスタクリンさんが此處へ来るから……、と、いかに細やかにスタクリン氏は誰と伴はないうで出て来るとかいふことを聞きませ。この時は筆子もリ藤田の機傍に、小程まで、モスクラに一治致しまして翌日ワルリンへ向かました。

ニドイツ寓

7. 國境廠の家等敬迎陣

舊ホーランドの獨り新國境のマルキニヤの驛に夜中の十二時過ぎに着きました。どうせ今晚は夜中に乗替へる計画を知らぬし、寝た着がよいからと思つて私は家井大佐と二人で將校さきして居たか、カクンと汽車が停まるじ物學の普樂が正に深夜の天地を揺ら

すばかりに響いた。何の音樂せらう、軍歌でも珍らしい居るのか、それともお祭りさやめて居るのかやな、かといひ小やうな疑がしたのであります。慌て下りて見ますと將校に夢中にまつて居つてから一歩の連中は光心(ト)貴賓室の扉に入つて居る、氣が付いた時分には僕と家井大佐と取柄さして居るのです。と、この家井大佐は軍服を着て居るもので、すから直に見付けて呉れまして永井大佐は片貴賓室へ持つて行かれました。私は心なしてしまひまして非常に明るい電氣が煌々と輝いて居るのであります。いづちへ行けば宜いからぬし、乗替へる汽車が何處にあるか分からぬし非常なまじ(して居つた。夜の光といひかものは今考へて見ますと、トイツレイタリと通じてあの驛ばかりまつたと思ひます。その他は何處も寂直な燈火管制下にありまして、全く冥暗になつて居ります。その驛でけは夜間競技場のやうに電氣が煌々と照つて居りました。その下に綺麗は制服、足もと或は内務省、或は外務省、その他は役入

E 1.3.3.0-1

3099

E 1.3.3.0-1

3098

0373

皆とれ、の服装の色が違ひ、言までも短剣を吊つて居ると、色うなわけの此は皆軍人かといひつくりしものであります。様々な色の服装をした人達が居つて、此に親衛隊とが突撃隊とが加はつて居ります。その中を縫つて何處まで歩いて宜いか分らぬので私はアコ(ト)してゐるものですが、このときニスタリ、オカアラ居なうかといひて呼んで歩く聲がするのです。岡村は俺とて行つて、と、このかえはドイツの外務省精銳隊の日本隊のクンツさんといひ人だつたのであります。この人が私を捕まへて呉れまして、君に電報が来て居るといひかので現ますと、ドイツの支局長から私にその人を通じても電報隊であります。それは大東、大等、積賣、等各社の連中がこの地帯でニスタリ大佐に隨いて一端に出迎へに行つて居るか、自分の才は枯れして手が無く困つて居るから國境の様子を見るか、宜しく頼むといひかのであります。宜しく頼まされて見て狼狽して居るのであります。自分は機けてクイツニイクリを待つて居ります。

E 1.3.3.0-1

3100

0374

人、困つたと思つてその人に隨いて、行つて見ますと、現程各社の優秀なる將隊員諸君が来て居ります。この連中は打電證明書を持つて居る、この時私は職業意識でこの夜中に此屋の表晴しい歓迎を受け、その感激は何となくして早く東京に打電しなげぬをらぬと思つた。併し私は打電證明書を持つて居るわけでもないし、愈々困つた。外務省の官報にでも頼りうか。しかし官報を打つても逆々新聞電報には敵がまいたい小やうな原が致しました。そこでクンツさんに訊いて見ました。これはベルリンの支局へ電話を掛ければなつたら宜いのでせう。と、言ふ、掛からぬかといふと、此方へいらつしやいしと言つて驛の前の廣場に黒いバネが一台あります。熱突見を所ではドイツの宣傳省と外務省の精銳隊は両管轄合つて居る、必しし巧く一切に各つてお茶い。と申しますのは外交宣傳に關する限り一切宣傳省に任せてない、宣傳省の方面は外交宣傳だけ

E 1.3.3.0-1

3101

向かかししと言つて居る。これは地獄に併せありまして「誰に
 といふと」友族ですと答へる。ブルリソの支局があつたといふ期間
 にその自動車の中で初め深夜の占領地の國境のブルキニヤの駅で以
 て出て居る。これには實に面喰ひました。實は向かかし電話に出る間
 に原簿の文句も考へ上と思つて居たのに整理する暇もなかつて慌
 へ深液に於ける盟邦の吾々に對する歓迎の有様や盟邦に入る感激の
 第一聲を凝視したかから傳へて直ぐ東京に電報を打つて呉れと頼み
 ました。儲局各社から打つてのはブルリソの檢閲を通過して廻るとい
 かやうなわけであつたから、却て私の方が早人行つて来たやうなわけ
 であつた。歸りかきに見ますと例の自動車の下から何本も煙
 煙線らしきものが出で居ります。これは驛長室に差込んでありまし
 て、繫がつて居つては那加鐵路を傳はつてブルリソに通過に當つて
 居りました。その線では吾々一行共處を發するまでの間は絶
 對的に優先権を以て如何なる通話中であつたか、その線については言
 う

E 1.35.0-1

3103

は全く外務省の情報部の手に握られてあつて手が出ない。之を自分
 の方では敘しいといふやうな關係で面白い話の後からあつたのであ
 りますからいふ、さういふやうな趣向があらうとして、ケソソさん
 執事件を行つたその宣傳省の車が電話を使はせたいのであります。た
 魔が使ひのぢやない、日本から来た國策の岡村さんが使ひのぢや言
 へない、友人なら遣はせたいといふことに成りました。それから宣傳省
 の自動車の中に入つて参りますと、ケソソさんが受話機を握つて、
 「ブルリソの支局は何番かし」と言ひから、X X X番でと言つたらか
 ちやうとややつて直ぐ受話機を我に渡した。私は固つてそのぢや、交換
 手が何か出るのぢやないかと、ケソソさんがいふから何と云はらう
 かと思つて實は非常に心配であつた。何と云ひかんと云ひかへハ
 「ロ」(と言へば向かかし何と云ひかへらう、向かかしと言つたら
 此方では考へられぬといふと思つて仕方ないといふので、彼は受話
 機を耳によつてゆくと(これはぼんぼんの三羽が五羽位の間でしてはか)

E 1.35.0-1

3102

0375

か斯うしてといふが案を出して、又無線で言つて来るといふか
 ますと、こゝろして一時間、二時間の時間を要する。ところがあの
 電話でしては、最前線に最前方の作戦指導者との間に直ぐ受け合
 うで話が出るので、非常に作戦が早く展開出来るといふかやうな効果が
 あります。今度の電撃作戦に於てあの素晴らしい戦果を擧げることが有
 る線電話の連絡が驚つて力あると思ひます。これはまだ盗聴される虞
 がありません。無線電信、無線電話であり、また盗聴される虞
 がありません。作戦の妙處をこれに依つて是れを受けるといふかやうな
 ことがあつた。斯ういふ點で無線電話は盗聴される心配はありませ
 ず。斯ういふ點で無線電話は盗聴される心配はありませぬし、之が
 加ドイソのあの華かな電撃作戦に可なり大きな役割を努めて居るの
 だやないかといふことを感じさせられました。
 -ブルリソはまた放明け前に通りまして、昔ブルイソ領に入つて来ま
 す。各驛の歓迎といふのも、其の事實は甚だ素晴らしいのであります。何
 るのブルイソのトクトクトクといふ人でも、人でも先づ、しからぬ

E 1.35.0-1

3105

から直ぐ繋ぐといふかやうな直通線が敷設して居る。その間に
 あります。吾々は前線の無線電信を活用して二ユースの敷設をいふか
 つて居ります。ブルイソでは日本の支那の作戦と違ひまして、
 地勢的にさういふ土地はありませんから、無線電信を構築に苦用し
 て居るといふことと知つたのであります。これは例へばブルイソニヤ
 に入りましたブルイソに入りました。これは其處までは電話線、共
 居りました。先づ前線、大きなブルイソに電話線。恐ろしく長いものを
 居りました。最前線基地から更に前進する時はその線は地上へ披
 けて車を走らせるといふ。何處へでも停止する時はその線は地上へ披
 けるブルリソに直通の語が出る。ところが無線電信であります。選
 選線期間を豫め決めて置きまして、今度は一時的に始めて始めて選
 入から、その次で時間に来る非比相まが出るから線が引か
 叩いても厭いません。これはから又一方始まるのでありますから
 此方が打つ、向かかしを受けて、又此を司令官の處へつて行つて司令官

E 1.35.0-1

3104

0376

が整然として、能くも格段に暖存せられ、思ひ程であ
ります。最前線に於て少年少女を出して見ます。これは同時にか
少年少女に訓練を兼ねて居るの位と思つて居るものであります。さう
してこのヤウな團體が茶を居つて居るの團體毎にアラバソド乃至
ソツハ隊がその光頭を持って行く、外務大臣がソツハ手を
撃つて歩いて参りますと、音楽が一個所であつて大臣が歩くと伴
て音楽が随いて歩く、各團體が皆それ（樂隊を持って居ります）と
と此の外務大臣が歩くと從つて彼がソツハ隊を持って行く、あ
るやうに歓迎の。一つのソツハ隊がソツハ隊として非帯を効果を
吾々に與へて呉れたのであります。

2. 感激のブルリン入り

ブルリンのアムハルグー驛に着きました時、歓迎は、ニコラス映

€ 1.3.3.0-1

3106

0377

画も来て居ります。全人吾々の想像致しまして以上のもの
であつて、これはドイツといふ一つの全体主義國家が國家の意思を
以て書いたところの脚本である、その脚本通りに綺麗に演じられ
一つの國際的盛大な芝居の場面であつて私は言ひたいのであり
ます。あゝいかに大抵の歓迎といふものは民族の意思とかドイツ國
民が吾々に寄せる感情の發露とか同盟を謳歌する氣持とかさうな
ことそのことを感ずるよりは——それは全然無意味に思は申す上では
多りませんけれども——一つの大きな國家の意思が行つて居るの
歓迎がソツハ隊といふ一つの國際的大トリヤであつてはいいえ、
又此から又その一本の旗、配置、或は無數の香の草花を以て描き加
す一つの美しい概念的形態、或はメイズ、ストリート、バルコニー
の意を塗りつがす日傘旗とハイケンクロイツの旗が又、或は
その下に配置する民衆、さういふ凡そもの一つの舞台構成とい
ふものも吾々は感じないのであります。これは又一つのソツハ隊とい

€ 1.3.3.0-1

3107

て表現されます。更に大きな國家の意思に依つて一層の効果を發
揮する。ナリムソツハ隊の映画が丁度さうでありまして、貴況を見て
居つたよりは、映画を見て居つた方が激銘を喫へる、映画といふもの
は一つの藝術品である、又又巧みに使ふことが非常に大きな宣傳
物價値を招来する、五百人の觀客を一人に見せるのも映画技術で
ある、五千人集つた講演會を五百人に見せるのも映画技術である。
この意味に於てソツハ隊は統制國家、全体主義國家の一つの大きな
表現方法を持つて居るといふことを感ぜざるを得ないのであります。
私のやうな者も度々あるが、ソツハ隊のオリーヴン、カリスを喫へらば、
大臣の彼から歓迎の大群衆の中を撥き分けて進む時の氣持を申しま
すものには、此は何と云へば、その好い氣持であります、意識的にや
つておかけで居るものであります。然らば考へて見ると自然に手の上
居るのであります。これは決してソツハ隊を感ぜたいかやうなわけ
はないのであります。併しこの時に私は小さいと何年前かの同

€ 1.3.3.0-1

3108

0378

ブルリンのナリムソツハ隊のオリーヴン、カリスを喫へらば、
吾々同胞の揚州を白草旗、或はオリーブの葉を以て非常な
感激を覺えそののであります。この日、ブルリンの街に日傘
旗の波うつて見ました。私は御披露の畏さ、日本の國力の有難さを
皆に身に感ずるに感ぜさせられたのであります。

3109

3. 遠慮しなから航空軍

と此から此（ハシゴロ、ブルグエー）といふ宮殿の迎賓館に迎
へられまして、お礼のやめに地下室の設備を大急ぎで改修しま
して、我々のつく前日にヒトラー総統がわざわざこの下換分に來
ておられるといふことが、周圍の森の中には幾かに高射砲を架
けてあるといふことが、イギリスの飛行機が爆撃
に來るやうなことが、飛来したことが、幾らイギリスと日本の外務大

€ 1.3.3.0-1

臣が行くのにはやつける度胸はあるまい、却て疑慮するからうとい
小やうな裁と、裁かしの爲に一發に發は来るからうといハグキヨ
とありまして、行つて見ますと昔の邊はさうでござり
ませんでしたか、翌日翌日ハグキヨで好い月夜でありまし
た、今晚の夜も知れなまいハグキヨを多少の期待を持って
居たのでありまして、魔界の中の某處までは今は今晩風呂に入る
まいと言つて大いに緊張して居りました、心して風呂に入らない
かと言つたら、風呂場から慌てて逃出す始母は良しなから……
と言つておかけでありました、別頭一皮リでルリツでは爆撃
とお目に懸らかたしまつたのでありますか、我々がモスクワに向つ
て引きあつたその次の晩にシニコフ、グエーの近所へ落ちまして非
常に悪い所に落ちまして居る、此はハグキヨが松岡さんに對する手紙
の代りに送られたのをらうと思ひます、その手紙にせ何と書いてある
か、「あなたに居る間は敬意を盡しませう、併し英國に曝露させられ

0379

3110

B 1.5.3.0.1

ないのぢやない、やらうと思へばあるまいかいでに居る所ぢやあ
らふかつて居るし、そこへお見舞い申す腕前も持つて居るといふこと
を御承知下さいといふ手紙の代りにハグキヨのやらうなと吾々は
笑つておりました。
4. 「二つのトツ」- 物資統制實踐
シニコフ、ベルグマン、着いて我々が自分で喫へ、兵隊部屋に進入り
一息ひいてゐるとそこへ私の社(同盟)の支局長ハグキヨが入つ
て来まして、部屋の正面のテーブルの上にはハグキヨがありまして、
小さな本棚が二つとホレンが一つ、その上には黒くまごまごを
ハグキヨが大勢さうに載つて居る。入つて来ますと支局長は私の顔
を見ないでいきなりハグキヨの「お、ハグキヨ」がうるさく居
た。「食つたら食ひ給へ」といふと、後には皮肉は笑つて居

3111

E 1.5.3.0.1

りましたから割くには割くべきでござりませうか、全く同じに止らぬ
早業で飲込がまして、それからは私の方へ向き直つて「あ、風
村さん、よくいらつしやいます、皆さん、皆くおしや、ハグキヨは振替である
を今、英語がその本語であります。私はこの隣居ハグキヨのハグキヨ
を見たいと言つて記事を書いたのではありませんか、その二つのハ
グキヨの中の二つは國境待遇を受けながら見るとは出たその
であります、例へば、私が友人の在留日本人を知合の連中を招待し
て御飯を食するといふハグキヨを三つと見て見まして、私が招くだ
の如くからお金で片は私が持つて、飾りかけにけいさの肉は何足地か
らと食つて、ハグキヨが御馳走と私にお金を言つて行くわけがあります。
又皿から高嶺城を買はせと思ひましては、ハグキヨが買ふことを出るわ、お
土産は何が最も利いそ高年華を買はせと思ひ、一人に二つと二本
以上貰ふことは出来なまいと云ふ。ハグキヨのハグキヨのハグキヨ

0380

3112

B 1.5.3.0.1

この事はアパリンよりは能く教へ、しかし之れも監督が指定した
量だけしか賣らなまいのせいであります。監督さん、ハグキヨは、
で、シヨイサイハグキヨには相當の物が出て居ります、ハグキヨの
欲しいものは、買へない、要するにハグキヨの統制といふものは
は物があつた程に統制するといふ風に見ると、ハグキヨの統制といふものは
さうして國內消費を控へ、抑へる、故へく外貨獲得に廻すと、ハグキヨ
に送ると、ハグキヨの宣撫工作に使はせ、ハグキヨの國內でハグキヨの
そこで居る物でハグキヨの國民には消費を極端に抑へます、ハグキヨの
と考へてやつて居る統制のやり方があります。随つて統制が厳しいから
物が無いのせいでハグキヨを判断は出来ぬわけがあります。併し
苦しむと思つたのは脂肪分を含まざる本物のであります。この統制
はハグキヨの不安を與へる程抑へて居りますので、この統制は相當苦しい
もので、食ひたいと思ひます、ハグキヨの他の物では統制して居

3113

E 1.5.3.0.1

話の都合から總統より先にがいリッング前を登場させてしまひまし
たけれども、その前の日に私達はヒトリノ一總統の官邸へ午餐會に招
かれました。ヒトリノ一總統の手を握つて見ることか出来ました。總統
はあの髮の毛を綺麗に上へ擡ぎ上げて居りまして非常に上品に見え
ました。私の會つた所の總統といひもは實に優しめておやがて親
し易い感じでありました。唯だ目は青く美しく、ヤミと燃える
寶玉のやうな光つて居る目でありました。私は昔てある地方のお巡り
さんか、夜捕まて留置場へ入れて置いておいて夜中に夜中に夜に
目の光る奴があつて、さういふかにかつ付かると監視して居つてソ
監視して居る方で察知が悪くなるといふ小話を聞いたことかあります。
その一番代表的なのはあの大本教の山口主任三郎、あ、いか人だとして
居る方が三日や四日から神經衰弱に落ちてしまふ、あの目で

€ 1.3.3.0-1

3121

らもつと驚いたのは、リッング前とある小な尖つたビルがある
のであります。丁度銀座の旅館で賣つて居るウチェが、かゝいち、恰好
まして居るものであります。そのビルをがいリッング氏が、口の兩側へ
啜つて居る。牙を並べたりして、いか恰好にやる。さういふ小な調
子で周囲の人々に見せてゐる。實に不作法と言へば不作法、純美と
言へば純美ですが、さうかと思つて、音樂が始まる。禮や手を
振つて見たり、松岡さんをお案内しそれから、スワツクさんで
見せる。これが實に型破りのところがあつて、この男から何を言つて
情めなといひがやうを氣に致しました。又此方を唯だといふだけの男
かと申しました。此れが中々さうで居なくて、例へば松岡さんと
緒を歩いて居るときに、松岡さんか、「がいリッングさん、おはよう
日本へ来たら氣を以て以上の歓迎さしますと云うからその時は
咄違ひに答へて言葉で返さる。いかに中々鋭い政治的、外交的言
聞もあるといふと、さういふ間接に氣に取られて居ります。

€ 1.3.3.0-1

3120

0384

故ならはトイツに於て今日國民の信頼と尊敬とが榮耀としかこそ
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、
つて氣持は勿論ヒトリノ一總統の一身に集中致して居ります。これは、

€ 1.3.3.0-1

3119

見まして、お此は餘りなと過言さるぢやないかと言つた人があるぞ
うであります。これに對してヒトリノ一總統は何と答へるかと言ふと、
「此は傳へ聞しところ、言葉は遠かから知れませんけれども、總
統曰く、「わしは大存も持たぬし、海を飲まぬ、餐膳の出来る男ではな
い。國民がいまは一人だつて繁華を以て憤つては困る。けれども
人間といひも、お此のまはさう行詰るやうな生活にいつまで堪へられ
るのではない。お此らお此皆で繁華をやる事は出来ぬから、さうせ
るなら國民に代つて一人位代表的な繁華をやつて呉れる奴があつて
お此ではないが。どの代り、これは世界をアツと言はせるやうな繁
華をやつて貰はまは、いかにトイツの面目に関する。だ、斯ういふ事を
答へたといひ小話が、ありまは、これは本當かどうか、自信は
ありませんけれども、ヒトリノ一トイツ人はこれ位のことば言はせ
てお此し、トイツの國民も、いかに繁華を見まして確かにとん
なきお此の裕かさか、あるのぢやないかといひ氣に致しました。何

€ 1.3.3.0-1

3118

0383



見る（見らぬ）から番する方が餘程辛いといふことでは、
 の争をふつと思ひ出しました。あのお逆りさん、お伴をして行つて
 三十一に會はせたら、この人の張番は眞平で、吉かぞらと思ひまし
 た。それ以外に、三十一總統の場合には、丁度子供の
 時と讀人を魔法使ひの空玉といふやうな敗北が致しました。何か始
 る燃えて居るやうな、青い焰の立つて居るやうな濡れたやうな感
 の鋭い目でありました。私はこの人は恐ろしい天才を持つて居る人
 と思ひました。それ以外に、一方では恐ろしく理知的な、理智的な強
 反響を持つて居る人だと思ひました。飛ぶ抜けた天才的なもの。と唐
 き上がって行くやうな理知とその二つが併立して、而して血が常に相激
 相磨き上げながら一つの人格を完成して居る。斯ういふやうな人が
 やないかといふことを感じたのであります。それ以外から見ると、
 と、椅子の掛け方をいふ宴會の時に、あの人は、後には深く掛けて
 肩を丸くして樂にして居りました。茶食ですから料理の食物も別を

E 1.3.3.0-1

3122

0385

ものを取寄せて居りました。形振りな自由な環境を、
 にして居りました。その食事は總統官邸の相當派手な食事をありま
 した。その正面に大きな油煙が壁に掛けて居る。その繪は非常に
 感ぜぬ、好い繪で、何處か間が抜けて居るやうな景がし
 てあらなかつた。それ以外で、何處か見ました。あの繪は、
 して百年ばかり前に、死んだ名畫家の死後、未だ完成品でないが
 といひで、空には、翼の生へた童子が舞つて居る。地上では、幾分か敏
 善して居るといふやうな、秋の收穫の喜びを現はした繪に違ひないの
 であります。非常に和やかで、感ぜぬ、しなやかな感じがして居る。確
 かに未だ完成品らしい所がある。と、
 かに、あんな繪を掛けて居るのか。こんな有名な繪で、掛けるのには、
 思つたのであります。が、總統は、この繪が非常に好きだといふ
 掛けさせ、その人、その世間の評判の好いもの、
 好評のものを、

E 1.3.3.0-1

3123

に因はれない個性がある。その二つを、その人の、
 的を計畫して、作戦といふものがあるやうに思ひました。リッペン
 ヲツプ外相が、松岡さん。今度の、
 敵は一人で、六つの出雲を、
 あります。この六つの出雲といふのは、
 の武器の、
 の意味は、私は知りませんが、
 創的を得るべきが非常に鋭い、
 ました。

3124

0386

リッペン
 さうな、
 深い所が、

E 1.3.3.0-1

る。この人、
 時、
 意味で、
 なる、
 子分、
 にか、
 名、
 けは、

E 1.3.3.0-1

3125

三 イタリ―啓略
人心からなる歓迎振り

ドイツはその程度に致しまして次にイタリ―の方面へ参ります。イタリ―はアルプスを越える時分にまだ雪が降りて居りました。芝草から向かいの麓へ下りて見ますと芝草は之らの春景色であります。雲脚からのミツリヤ、枯草ばかりのドイツを運つて来ました。我々は何れもが素晴らしい自然の饗宴であらうかと思はれました。イタリ―の歓迎はドイツのそれ地國家の意思に依つてなされ、大國際的ムラマであつたといふことに對して、イタリ―にも勿論一つの國家の意志による助言はございまして、その助言の増を越えて躍り上がる群衆の愛すべき心理といふものも我共共感せしめられ、めであります。何れに致しましてその歓迎は單に國家の意思だけで

6 1.3.3.0-1 3130 0339

ではなく、これ（その國民一人々の感情が一掃に燃つて燃えて居る。斯ういふものを感ぜました。甚しきに至つては警備の巡りさんまでが一掃に燃つて手を叩いて居るのがありました。

2. ムソリ―ニ首相の風事

午餐に招かれました。ムソリ―ニ首相とも親しく手を握る機會を得たのであります。ムソリ―ニ首相は自ら「つと先陣に私は誠が日本でもこの人に似た人があるが、誰ぞつとらうと考へたのであります。私も思はず世帯かつたのであります。後でいふ山に居るナヒといふが、こゝを思つて、しかも生きて居る西郷さんよ。私は銅像に存つて居る西郷さんの方には餘計似て居るといふやうな感ぜが致しました。生きて銅像と云つてやうな感ぜであります。この人には理想と聞かなくとも、宜しいお姿だかやうて、呉れるものがある

6 1.3.3.0-1 3131

3. 物資統制に于心

大にお委せしませうと云ふまい感の人の人でありました。唯ぞ若し心配があるとするならば、ムソリ―ニ首相の下に居るその他の指導者からドイツに比べて何となく見劣りがする。例へば軍の指導者を中心として年々取り違せて居ると云つた感ぜであり、又若い人達もドイツに比べると何か多少見劣りがする。チアノ外相は前線から察行機で参入で歸つて松岡さんを迎へてお話しして、この人は非常に元氣な戦争をホ―ツマツマといつて感ぜの久でした。

6 1.3.3.0-1 3132 0390

イタリ―に居る人はイタリ―が非常に良くなつて居る、素晴らしいところのせいといふことを言つて呉れますが、私はドイツから行くものですかからまじ（これからいふ気がして、おらからこのものであります。物資は非常に豊富にありまして、ドイツ

ドイツにある物は何でも買へる。例へばフランスの化粧品であらうが、アメリカの養蠶品であらうが、毛布とか靴とか、羊織品でも或は毛の物でも、ドイツの時計でも日本人にありまして、これか金で出せば幾らでも買へるといふ状態であります。供し物によつては時にイタリヤ名産のスパゲッティなどは、一般の商売品と云つてあるやうなものはあるやうでありまして、一般の商売品は山ありまして、これは何でも買へる。これは併し能く考へて見ますと戦時統制がせられ、ハイハイイタリヤと此自身が大した生産品はないのでありますから、國際市場として開放して置くことには大つてどこに何か儲けが出来るのやないか、イタリヤ或は経済の收入が其處に生ずるのやないか、さういふことは無理に抑へてしまつたら知つて困るのであります。私は経済のことと日本人で分りませんものですかからその程度に解釋しただけで、さういふ心配がさういふの統制の上に行はれて居るのやないかと

6 1.3.3.0-1 3133

いことを感じて参りました。青少年の訓練につきましては、
二首相が非常に力ま加へて居るといふことでありまして、これはさ
すかである。この點に御太判の將來は大なる期待が与るの地と思
ひました。

4. 松岡ムリリニ會見の概

(ロイヤル法王に會談)

イタリイで面白かつた語は松岡さんがムリリニ首相と會つた時
の恰好でありまして、之は私はドイツの盛んに松岡さんの大風言
敷の成功を見て居つたもので、ムリリニ首相と會つた時の
様子も私は當り前と云ふ感じがして居つたのであります。イタ
リイに居る日本人の四、五人の連中に訊いて見ると、ムリリ松岡さ
んは恐ろしくムリリニ首相を取扱きへてゆき振つて居つたと云つ

0391

3134

E 1.3.5.0-1

りして居りました。今まで外國から来ていふ人が来てムリリ
ニ首相と會つた時は相當行儀よく敬意を表してやつて居つた。松
岡さんの言ふに、まるで兄弟分といふやうな感じも持ちながら兄弟分
か分らぬやうな恰好でやつて居る光景は珍らしいといふことと皆が
言つて居りますので、さういふものかすて私も思つたのであります
が、これは舊外なる國威を發揚して吳非と云つて地元の人が非帶
に善人で居りました。ロイヤル法王に會つた時に、大抵の人はロイヤ
ル法王に謁見位で歸るらしいのでありますけれども、松岡さんは法王
とつがまへて人類の永遠の平和と安定と幸福といふやうなことをこつ
いて約四十分に亘り會談法をやつて來たのであります。外國人の
記者が余り長く語して居るから松岡さんか何か世界平和のことのみ
を打つかりかやないかといふやうな時節がイヤリヌライツクに考
へて居ることもあつた。會見がすんでから法王の處へさうにゆきまし
た。さうすると法王は珍しく機嫌が好く、記者に會つて、あの

E 1.3.5.0-1

3135

人はソイロフイニ持つて居る政治観を、いつて感心してゐるさ
うであります。ロイヤルでは伊太利皇帝陛下にも外相にいつて参りま
して殊に列強の光榮に誇りました。イタリイでは私は殊に蘇俄に
ものです。それからロイヤルの古蹟や色々な古美術などは一々見せられ
て参りました。

四. ソグイエト宮

2. 對王口トフ會談の概

かうして獨伊に於ける輕軌強化的の使命を無事に果した松岡さ
んは四月の七日にモスクワに歸つて参りました。七日九日、十日に亘
り各三時間半に亘りモロトフ氏と會見しました。そして十日の晩半
で發つ豫定でそののであります。松岡さんは突然感は一ツレニツ

0392

3136

E 1.3.5.0-1

からソグイエトを見たいといふかや三やるといふ言ひを出した。二十加年前の二
等書記官時代に新塔のソグイエトを伴つて赴任して、俺。住んで居つた
あの頃の家もどうもつてあるか見せたいとソグイエトに居る時分から頻
りにさういふ小事を言つて居りました。何とが汽車の都合は付かぬか
と云つて居りましたけれども、その時分から既にモスクワの交渉が
若し長引いた時に一先車送らせる理由を述べ、松岡氏の遠慮深慮を
つたに違ひないといふのであります。兎に角頻りにさうい
ふ事を前から言ひ觸らして居つたのであります。七日と九日のモロ
トフ會見が一向進展しない、進展しなかつた理由を松岡がソグイナリ
ストとして察します。私はは勿論國家の機嫌は誰か言つては呉
れませんが、私が行くに成べく逃げて行く人が多くなつて、均にモス
クワの松岡参事官には申し譯ないことと申し之のであります。均にモス
クワに少しは聞きたいと思つたので、松岡参事官の機嫌を遠慮して参
りました。参事官が困つて何か言はなければならぬから、難まらぬ

E 1.3.5.0-1

3137

E 1.3.5.0-1

に越しては、逃げて歩く。『吉川参事官は

今確かにこの部屋に隠れて居る。前へ出て来ない。此方は地の利を得るに、向

置

業であるとは北樺太であるといふやうなさうなさうな問題にござ

E 1.3.5.0-1 3139

「便所へ行つて」と言ひ、便所の前へ十分ばかり出て居ると、

「出て来ない。此方は地の利を得るに、向

後、田代さんか聞いていりつしやるから間違つては、訂正して載

すか、田代さんか聞いていりつしやるから間違つては、訂正して載

けるで、うと思つて録計本長に申上げます。免に角の三日間さつ

たり進展しない。何故進展しないかと私流の解釋を致しますと、向

がは盛んに現実的を問題、例へば國境であるとか石地であるとか漁

E 1.3.5.0-1 3138 0353

が進展しなかつたのは、前でも言ひました、松岡さんとして

言はしめれば、口々に對する敬語である。又日本の切々なる氣持を

置

奇せて讀んで居つて居つたのであります。大体條次は俺は確記し、横

E 1.3.5.0-1 3141

相手は傳へる為めの勢力、松岡の人間性は今日の日本を相手と認識

させるといふことが必要だ、それだけやつて物目が、あつた、誇

々と説いて、後は政府に委ねるといふやうな氣持があつた、その

の間を割いて、換りに日ノ關係の過去に於ける色々な條約の全文を

E 1.3.5.0-1 3140 0334

に「汽車乗出」と三日延びることにあります。それでは何にも持たず

反動に第三國關係の記者連中は實に得意になつて善人なのであります。早くも彼等は松岡が来隊して歸るといつて居るといひ話を聞いて「やし」なりました。私は特に随分でもありまして、

ところが十二日の朝にネリますと、これより私の聞いて居る話では、何でも此方から朝松岡さんがクレムリンに電話を掛けたらしいのであります。私は明日の汽車で歸るの事、今日はお別れと言ひたいのであります。から「タリ」さんにも會ひたいといひかきとせよといひのであります。

3. 最後の五分間に妥結

E 1.3.30.0-1 3142 0335

ます。さうするに向うから直ぐに「さうで御自由の時間にお出で下さい。さういふ返事があつたらしいのであります。松岡さんはその隙を氣に後からして居るのであります。併し我共には全然分らないで、今日はお別れに行きのぞと云ひながら愈々、松岡さんといふのであります。松岡さんの中々出掛けないのであります。午前中は朝の有名な「カク」の土壌研究所その他の見物に費し、三時に再び四時にやつて出掛けた。何時も大抵遅く、四時にはモロトフさんの會見には出掛けた。行つてもあります。五時、色々な事やつて居りまして、それからは色々出掛けた。今考へて見ると宮本武蔵の最流島では何かと何かと思ひのであります。何でも傳へ聞くと、モロトフさんはその時は話さしなさいで、初めから「タリ」さんと松岡さんとの對談であつたのであります。

E 1.3.30.0-1 3143

付此は、タリさんの底は宣しい、やりませうと言つて出しなう

句調だつたらしい。ところが松岡さんにはその言を聞かぬ。松岡さん、それよりは何も世に出す氣なから、地方の「タリ」さん、少しも條約をいさやみたりない。梅は歸るの空から挨拶に來たので、出るに隨つて一言言ひ置かぬ。いや、といつて建前から陸人に加へて、此方から遠慮なしに八紘一

守、日本の理想などについて話さしめたいのであります。さうするといふ、何で俺はやる氣で居るのか、松岡は分らぬ奴だといひ、やうな顔をして聞いて居つて、その言をいかに思ひのでありますか、さういふ言を經過を辿つて一時間半ばかりの會見で最後の五分間、十分間の間に決つた。斯ういふ風には想像教して居ります。そしてそれでは明日の二時に補明しようといひかきとせよといひのであります。

E 1.3.30.0-1 3144 0336

松岡さん、今日はお別れに行つたので、松岡さん、

松岡さん、今日はお別れに行つたので、松岡さん、

留日本人の三人の記者と一緒に大使館の事務所の玄関に入つて左側の大きな部屋で外務大臣の歸るのを待つて居つた。さうするに七時

E 1.3.30.0-1 3145

り、今回の松岡訪問は道塊形に現はれぬにこそ將來の日子國次調

るので、あれだけの思ひ切つた大仕事をやり上げて、少くとも大
臣として自分の政治的生命を賭けて或は日本の國際的生存を賭
してやうして来て相當な仕事をしてほつとした瞬間でありまして
いふ、その時既に大臣は無心に歸つて（我共は其の悲劇を見てし
つとけられたいのでありまして）頻りにハンカチで涙を拭いて
居る。今考へて見ると實に不思議と言ひがいかにも豊かな人間性
を持つて居る人と思ひます。その事と其處へ行くから豫則祭の準備
大臣がやうして参りました、荷故茶室か、吾々と同じやうに考へて
おつとしたら今日クレムリンが最後に引繰返つたかゞ知れぬ、それ
を叩く積りでやつて来たに違ひない。もしもこの大使から「どうで
す出茶まじと笑かして知られぬ、これは吾々を欺くと違つて有り
一國の外務大臣が一國の大使を捕まへて公然喧嘩は付けないであらう。
際合つたと思ひますか、外務大臣は某國 大使が来た
のを知ると、普降りと先に立つて廊下へ引取り出します。として

E 1.3.5.0-1

3147

整には非常に効果大なきものがある。この進行かうといふから
好いやうな電報を打ちあそぶ。必か英米の奴が喜んで手を打つて
居るに違ひない、將來に及ばず好影響といふやうなとて一本飛世
すこしに話を決まします。その晩外務大臣は芝居見に行くといふ
のですから、吾も藝術座の方に行つてしまつたのであります、我々
は大臣の方へ氣を取られて行つてしまつたが、このとき少し
残つて居る歐亞局長や西公使、宮川参事官等が深夜に突んと條約
大整理のため行方不明に在るので氣がついて皆であるが、その時は大
臣をへ張つて居る宣いの積りで大臣の方へ取らぬ居つた。大
臣は夕飯を食つてから格々と藝術座の貴賓席に現れた。子木三
不リ、シスターといふか今モスクワで大母の新聞です。米煤の愛し
て居る軍人が軍隊の移駐か何かで別州へ行かぬか知らぬといふ
やうな別州の場面に在ると大臣はハンカチを出して本當に泣いて居

E 1.3.5.0-1

3146

0397

疑は付いたものであります。また外國の連中にはその時分に
はかつてお本がそののであります。と見から調印式が済んだの
日の三時であります。調印式の式場に於けるガウクランを祝宴の
情景といふものは加は方々に傳はつて居るので、私から改めて
申上げる必要はありませぬ、スタリー氏は常時書記長で
すからサインをさせぬので、その間にスタリー氏はお端を運ん
だり椅子を運んだり、或は自分で電話を掛けて一時間汽車を延ばさ
せたり、さう云つたやうな事をしてスタリー氏は盛んに氣を動か
して居つたのであります。またスタリー氏は在モスクワの武官
と地方から行く大隨員を加へて四人の陸軍武官を捕まへて、日本の
陸海軍は強いが、軍人を優待しなさい國民は滅びる、某國を見るとい
ふやうなことを盛んにお世辞を言つてお世辞を言つてお世辞を言つて
りかの海軍は精神が、日本の海軍は精神が、あるから、軍艦を
祭ら向かて送つてお世辞を言つてお世辞を言つてお世辞を言つて

E 1.3.5.0-1

3149

いきなり大使の肩を叩いて何か言は前には此方から祝言を擧げて言
つた、「君の奥さんには貴に何か奥さんおナレと言つた。と見から奥
さん禮讃論が十人分位ある。これは政綱さんの得意の環談本人が
る。向かると奥さんを褒めらぬから悪い褒めたりといふ思ひ、とん
な無駄話をして居る中にナル加鵲つた。「孫笑通り笑つたといふ
から「明日おつしと言ひ、そこでもう芝居が始まつてしまつたもの
だから某國大使を送るに其處では何も聞くとお出来たか、さう
いふ譯で電撃外交とやらの中には中々天才的な達人が今でも思ひ出
ちのであります。

8. 相格を明してスタリー

その晩私は夜送人歸つて来て初めて歐亞局長等が居るといふか
とを知つた。その時の形勢は少し慌しいといふので、やつと

E 1.3.5.0-1

3148

0398

松岡さんが何だ（と）いつて来た。その前にスタリリン氏が、

天皇陛下の御為に髭剃りませうと云ふ。松岡陛下の御為ならい
かの松岡さんが少し髭剃り飲んで居つたら、今の話は日露戦争の
話かと言つて割込んで来て、軍人の連中に「ロシアをやつ付けるの
は朝鮮前線にいかにと云ふ」「ときか」「さうではなアアメリカの語で
す。ロシアの戦争ではありません」と言つたら、「構がかい、ロシア
アとの戦争にしてしまへ」といひかやうそわけて到頭宮川参事官とし
て「この軍入達はお前の國をやつ付けるのはわけないといつておる
といふことを言はせませうであります。しかも松岡さんには道心だめ
後ま捕まへて、「軍人はそれ加荷賣せ、軍人は相手の國をやつ付け
る以外にない、お前の國の軍人ぞつて日本をや。付ける筈にやつて
居るのだ、併しお互にさういふ軍をバツクに持つてその上に立つて
高き人類の安んずる味に於ける政治をやるの加形なやである」と
お強であるといひか、大政治家の使命である」といひか、それと相手は

E 1.3.3.0-1 3150 0399

「さうだ」と非常に喜んでおられます。

9. マスコ―驛頭の劇物場面

(驛かして書記長の見送り)

クレムリンを引きあげて大使館に歸つて来た時には皆相替にい
え、それから大使館でお別れのセレブションがあつ
て、お共は、天皇陛下下馬城、松岡馬城、建川馬城で感戴の場面を後
にしましてさう時間が迫つて来るので急いで驛に行きました。驛に
は例の「リヴンスキ」外務次官以下各國の大公使記者團が来て居りま
した、それと松岡さんは一々挨拶して汽車に乗らうといひが瞬間に向
かの方からやつて来たのがスタリリン氏とモロトフ氏でした。松岡
スタリリンに似て人が来てと云つたら、私の傍に居つた人が、い
や能く似て居るが此は、スタリリンが来る筈はないと呑氣なこ

E 1.3.3.0-1 3151

を言つて居つたので、さういつておる間に彼は「三松岡さんとお
き合つて居るおき合つておる（言つて居るのです、それからさう間
違ひない、カマラ班が夢中になつておれを遊人に撮つて居ります、
ソ聯の復興局長を人か心配しましてスタリリン氏を滅べん刃離さう
とさせるのですけれど、スタリリン氏は「おれは「おれは」と言つて押し
拂つて居るのです。兎も角松岡さんとは非常に意氣投合しな形で、
おれからスタリリン氏は松岡さんをお自ら案内して車の中に入つて行
く、松岡さんが後から行し、その時續いて上り口で松岡さんは釋ん
そののです。上川に歸つて来た時左手で近衛さんと握手して居ると
いひか語でありました。おれは「おれは」の時一寸右手を怪我させられ
らであります。スタリリン氏が入つて行つたおれから、おれは驚異
を撮らうと思つて後に入つて行つたのであります。彼は「おれは」
り入つて行くと三人の我々に專屬の料理人がお茶の用意をしてゐた。
この三人が驚いて逃げ出さうとするのでスタリリン氏はおれを捕まへ

E 1.3.3.0-1 3152 0400

て一々肩を叩いておれ、併しおれは今考へて見るとおれは
この三人がスタリリン氏の信頼する部下であつて、ア・ベ・ウの相
違ひを尋ねて居る中であつたかも知れない。この時おれは「おれは」
スタリリン氏はおれを見つけて向かへて握手を求め、思ひがけな
で彼は三巨頭との握手を完成することおれを歓迎して居ります。そ
の時のスタリリン氏の預けきと「おれは」は何と云へない「おれは」
々々で、「目で笑つて」いひつた感じの入りて居りました。おれは「おれは」
食へない入であるから「おれは」おれは御想像に委せします。

E 1.3.3.0-1 3153

10. 八氏表面出現の當然性

スタリリン氏は最近自ら首相となつて表面に現れさせました。おれ
は先見の明を誇るのでも何でもないのであります。驛りの訖半の
中で斯ういふ事を言つて居つたのであります。スタリリン氏は

E 1.3.3.0-1

は書記長でなければ收まらざるが、おれはじつは段々表面に

出るより外に任事かさいえうになる、何故かと申しますと、何處の

驛へ行つて見ましてもスタリソンの像が構内を祀避して居る、ホー

ランドの占領地に参りましても恐ろしく大きなスタリソンの像を早

くもつ立して居る、彼は自ら偶像にまらうとして居る、非常に趣

人物な者として國民の前で現はれ、信賴をつないで行かうとする、

この努力は革命に次ぐ革命をもつて國內に散ら持つて居る群

には必要がない、随て闘争過程にある層は人間或は同志的を立場で

以て「ソ」に「進歩」を發展して行けるけれども、もう今日の地位に上

つてしまつて國內が安定して来るほどの安定した力をハルマメント

のものにして、この現状を今度はその儘維持して行かうといふ立場

になつて見ると、今までの人間スタリソンの或は革命スタリソンの存

在を以ては恒久性を持ち得ない、其處に彼の苦しみがある、おから

彼は他人に自ら人間性を發揮し、せいと思つておからり尚且つ指導者

としての、獨裁者としての立場に立つと、今度は何れ起人物なもの

に依つて國民の信賴を繋いで行かなければならぬ、その爲に自ら獨

像化して行かなければならぬ、きつてしまつてしまつて居ると思ひますけれど

つて居るに違ひない、ヒトラーにしてしまつて居ると思ひますけれど

でも、日本の天皇陛下が心から有難い、尊い、素晴らしい氣持が理

論や觀念を超越して非常に深い理解出来るものが、随て彼が

天皇陛下の御爲に乾杯致しまして言つてしまつてしまつて居る一つの

表現に過ぎないのぢやないか、斯ういふ風に私は解釋致します、あ

れば色々な意味で食べない親命をからとていかにとらへりませうけれど

でも、一つにはさういふ心理的なものを持つて居るのぢやないか、

きつとあれは今に書記長でなければ收まらぬ、表面に出で来る

おれは何かとせぬは豫言したのであります、これは決して自慢す

るわけでは無いのであります、スタリソンの會つて見、ロシアの

現状を見るに非常にさういふ氣が致し、さういふのであります。

0401

3154

6 1.3.3.0-1

としまして、

3155

6 1.3.3.0-1

71 何か日ソ條約を成立させよか

それから最後に申上げたいのは、今度の松岡さんの成功といふか

のは勿論それは日本の國体、日本の實力の然らしめる所であり、そ

れからバルカンの戦況その他の國際情勢が非常に有利に展開して居

つたことと共言ひまておられるのであり、まて建川大使の御努力も勿論であ

りますけれども、にも拘らず以上一と申し上げて居つて

お話しは少くとも三回、會見の状況を見て居つて

非常に困難なつておられると思ふます、と人々國際關係が有利であつて

もさう向かひ安々と出て来る状態ではなかつておられると思ふます。一番の

要素は斯ういふ事ぢやないかと思ふ、松岡といふ人間、松岡といふの

ハツクにある近衛首相、この日本の今の政治的指導力が非常に強固

なものである、この政府は相當に強固なものである、少しも直きに潰れ

てしまふ從來の内閣とは違ひ、さういふおれを段々會つて居る間に

0402

3156

6 1.3.3.0-1

おれから

スタリソンの氏は痛感したのであります、いま松岡を怒ら

して歸し、さら當分日ソの國交調整は出たぬか知り知れぬ、之を怒らせ

て歸しても、おれが内閣が出来るまで、おれがその氣持が

あつた場合は、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

3157

6 1.3.3.0-1

おれから

スタリソンの氏は痛感したのであります、いま松岡を怒ら

して歸し、さら當分日ソの國交調整は出たぬか知り知れぬ、之を怒らせ

て歸しても、おれが内閣が出来るまで、おれがその氣持が

あつた場合は、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

らぬわけは、おれが可なり向かひも樂だつたさうと思ふますが、おれを感ぜ

3157

6 1.3.3.0-1



言ひますか、前根正作と言ひますか、その時の話し振りは一言々々
 が頗る用意周到そのものであつたといふことを私に感ずるのでありま
 す。最後に一言、獨伊り三國を分けあつて歸つて参りました事は
 三國のあの武装國家建設競争の模範を有様さみまして日本その國
 際競争に断じて負けてはならぬといふことを切に痛感いたしてな
 ります。いづれも諸君の話を長々致しました。

0403

3158

6 1.3.3.0-1

